

研究雑誌 (82)

人間発達の物質的基礎 (四六) … おわりに、自分でつくれば「わざ」になる (エスプリの構造)。

藤井力夫

今回は、擬音・擬態語の利用による音韻ループの自然な増強についてお話ししました。聴覚的な印象 (ワンワン) から、身体感覚 (コロコロ)、場面のイメージ (雲がフワフワ)、気持ち (ヒヤッ) の表現まで、人間における動詞句生成の自然な一端を教示しています。こうした形での生成回路の増強が、結び・二でお話した「《なんで》を支えに文法構造の習熟」の背景を形成するのです。これは、呼吸、情動、発声、動作、言葉、等が脳神経系で、きわめて自然で合理的に統合されていくことを証明しています。

前回からは、ヒトとして生まれ、人間として活動するまでのさまざまな動作を対象として、誌上解析していく予定です。原始反射の減弱から姿勢や歩行の獲得、および《さんわ》での実際の作業まで、外見では掴めないそれ自体に内在した奥義や、その人なりのまとめ方についてお話しできればと思っています。

表に、この間の話の展開を一覧にしました。I. 物質的基礎：基本機能ユニット、細胞構築学、定位反射の神経機序。II. 諸機能の対立と同一：知覚と行

為、ことばと叙述 (パラダイグマ関係とシンタグマ関係)、リズムと同期。III. 発達をめぐる基本問題：鰓弓神経、脳幹運動系、作業記憶をめぐる問題。IV. 開放系の原理からの結語。以上でした。

人間発達の物質的基礎として脳神経系にどのようにつながっているか。この二十年間における成果の整理として無理のないものになっているかと思えます。現在、推進されている国家プロジェクト・脳研究開発は、今後十年で、分子生物学をはじめ総合的にかんがりの程度の解明を実現することでしょう。私の整理は、知的障害児を前にして、教育や福祉、労働を創造するための基本問題でした。《気品》と《多様》をいかに実現できるか。内容を求める生理学的根拠と云えるでしょう。障害児教育は、当初から《エスプリ》を求めてきました。各人なりのやり方を尊重し、追求しようということでした。各人のやり方に裏打ちされた所産としての精神、それがエスプリです。これに関し《さんわ》の実践は、十年、二十年の単位での取り組みが重要だと教えてくれます。「自分でつくれば《わざ》になる」。遅延的ではあるが、脳神経系はいつも予期的に応用問題を解こうとしているということ、このことを協調して、拙論を閉じたいと思います。(北海道教育大学教授)

人間発達の物質的基礎

1. はじめに
 - 人間についての自然科学的認識、セガンの時代と現代。
2. 「心練学」の基礎を求めて
 - 1). アメリカでの川田貞治郎の苦悩。
 - 2). 描画能力発達への川田貞治郎の着眼。
3. A. R. ルリアの神経心理学の優位性
4. 脳の基本機能ユニット
 - 1). とりまとめ役としての第1機能ユニット。
 - 2). 層状構成のもとでの柱状配列による生後発達。
 - 3). 抗重力のもとでの対称性原理、両眼視にみる成熟と機能の同期。
 - 4). 抗重力のもとでの換気と発声、左右と遠近、手指の開き。
 - 5). なんだろう、新奇場面での賦活と快・不快による同期。
 - 6). 脳のなかの内なる他者、自我の形成。
5. 知覚と行為
 - 1). コースのブロック課業 (二つに分ける力の形成)。
 - 2). 定位を媒介とした形態視系と空間視系の相互作用。
 - 3). 砂場で遊べる子どもが《まる》を描けるということ。
 - 4). 鏡配置の修正、上下・左右から対角線的な見比べ。
6. コトバと叙述
 - 1). 関係の叙述 (範例関係・パラダイグマ)。
 - 2). 文脈の叙述 (連辞関係・シンタグマ)。
 - 3). 発声の音響学 (反復、模倣、定位)。
 - 4). 等時性拍音形式 (二語文への移行)。
 - 5). 対話の韻律 (拍節二音のリズム)。
 - 6). フレーズの生成は「付属語」とともに。
 - 7). 素材や道具への定位 (外言による内言化)。
 - 8). 音読の世界 (「音節量」の調べ)。
 - 9). 「くりこ」から (機能的肢位の調べ)。
7. リズムと同期
 - 1). ヴィゴツキーとルリアの出発点。
 - 2). 二つの流れのなかでの予期的準備設定。
 - 3). 外言による「予期的準備」能の形成。
 - 4). 《まるのなかにもまる》を描ける子ども。
 - 5). 交互開閉動作の秘密、伸筋による準備。
 - 6). 「手で聞き、足で歌う」ということ。
 - 7). 目と目があって、4ヶ月児の微笑み。
8. 論議
 - 1). 胎芽・鰓弓神経にみる脳幹運動系の発生原理。
 - 2). 腕わたりのもとでの《息とめ》と両眼視機能の形成。
 - 3). 4歩に3拍、直立二足による自分のリズムの連続。
 - 4). 脳幹運動系の習熟と「予期的準備」の対立と同一。
 - 5). 形式的な部分と心をこめた部分の音韻ループ。
 - 6). 作業記憶における空間的なものと文脈的なもの。
 - 7). 作業記憶は韻律にのせて、自閉症児の音韻ループ。
 - 8). 問題の所在、拍節二音における「裏拍」の調節。
 - 9). 問題の所在、視空間メモにおける基底線を描出。
 - 10). 問題の所在、付点八分音符での相互引き込み。
 - 11). 課題の設定、「用途」を基礎にアイデア。
9. 結び
 - 1). 活動を媒介とした意志の自由と客観的必然の制限。
 - 2). 自分のリズムで自分のコトバを、開放系の原理。
 - 3). 「なんで」を支えに文法構造 (動詞句) の習熟。
 - 4). 拍節・330ミリ秒、2小節での韻律生成回路。
 - 5). 擬音・擬態語の利用による韻律生成回路の増強。
10. おわりに
 - 自分でつくれば「わざ」になる (エスプリの構造)。